

平成 23 年度科学研究費補助金  
「基盤研究 B 〈海外学術調査〉」

—— 研究課題：

アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究

河 内 利 治 (君 平)      安 達 直 哉

# 平成23年度科学研究費補助金 「基盤研究B〈海外学術調査〉」研究報告

——研究課題：

アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理  
のための調査研究

An Investigation on the Collection of Chinese and Japanese Calligraphy Works  
at U.S. Museums in 2011, by the Japan Society for the Promotion of Science  
Scholarship

研究代表者 河内 利治

研究分担者 安達 直哉

Toshiharu Kawachi & Naoya Adachi

## 1. はじめに

独立行政法人日本学術振興会より交付された平成20年度科学研究費補助金「基盤研究B〈海外学術調査〉」により、「研究課題：アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究（課題番号20401014、以下〈アメリカ収蔵書跡〉と略す）」の研究を開始した。研究代表者は河内利治、研究分担者は安達直哉、研究期間は平成20年度から平成24年度まで5年間の予定である。平成23年度はその4年目で、本稿はその調査研究の一部である。

## 2. 平成23年度の計画立案

上記研究を遂行するために立案した平成23年度の計画は次の通りである。

《アメリカの博物館・美術館等収蔵「書跡」の基礎的データ収集の継続》

「中国書跡」の基礎的調査は、平成20年度、平成21年度、平成22年度の計画を継続する。この3年間と同様に書跡関連の書籍を収集しながら、図版（題籤・序跋等を含む）を精査し、「基礎データ台帳」を作成する。

「日本書跡」の基礎的調査は、平成20年度、平成21年度、平成22年度の計画を継続する。この3年間と同様に書跡関連の書籍を収集しながら、図版（題籤・序跋等を含む）を精査し、

「基礎データ台帳」を作成する。

上記の「基礎データ台帳」を作成しながら、実際に渡米し、各博物館・美術館等を回り、海外学術調査を行う。同時に機会があれば、中国（台湾・香港・マカオを含む）の研究者と意見交換するため訪中、訪台する。

研究協力者として、以下の国内外の研究者から情報提供を得る。

ユキオ・リピット：Harvard University Professor

張子寧（Joseph Chang）：San Francisco Asian Art Museum Consultant

岡 みどり：Japan Society Curatorial Coordinator（NYC）

富田 淳：東京国立博物館学芸研究部調査研究課課長

高橋裕次：東京国立博物館学芸企画部博物館情報課課長

倉橋正恵：立命館大学衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー

また以下の大学院生に基礎データ台帳作成の協力を得る。

高田智仁：大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻博士後期課程、「日本書跡」担当

亀澤孝幸：大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻博士後期課程、「中国書跡」担当

### 3. 平成23年度の計画遂行

遂行した平成23年度の計画は次の通りである。

- ①学内科研会議
  - ②アメリカ調査機関と調査書跡
  - ③今年度購入図書
  - ④基礎データ台帳の作成
- ① 学内科研会議

合計11回、学内のメンバーで打ち合わせを行った。日時は次の通りである（予定を含む）。

- （1）平成23年4月18日（月）「第1回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （2）平成23年5月16日（月）「第2回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （3）平成23年6月20日（月）「第3回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （4）平成23年7月26日（火）「第4回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （5）平成23年8月2日（火）「第5回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （6）平成23年8月31日（水）「第6回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （7）平成23年10月4日（火）「第7回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- （8）平成23年11月8日（火）「第8回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

- (9) 平成23年12月6日(火)「第9回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (10) 平成24年1月10日(火)「第10回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」
- (11) 平成24年3月13日(火)「第11回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」予定

以下、各回の科研会議における議事録(抜粋)である。

(1) 4月18日(月)「第1回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：15：30-16：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 科研関係提出書類の確認
2. 参考図書の購入

労継雄著『中国古代書画鑑定実録』全9巻を購入。

3. 今年度調査予定書跡のリストアップ

- ・ハーバード大学美術館：15点(中国5点/日本10点)
- ・フリーア美術館：25点(中国14点/日本11点)

(2) 5月16日(月)「第2回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：16：30-17：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. ウェブ上での研究成果の公開について

- ・昨年度の調査書跡より選定した画像、中国・日本書跡の各10点について、今夏渡米時に持参し、現地美術館に必要な手続きについて確認する。
- ・次回科研会議に選定画像を再確認する。予算をふまえ、書跡の資料的価値を考慮し、これまで印刷物に掲載されていないもの、Web上での閲覧が不可または可能であっても画像が小さく不鮮明なものなどを優先的に選定する。
- ・選定の検討に際し、あらかじめWebでの公開の有無、書籍への掲載の有無などを確認しておく。中国書跡については、時代の古い作品を優先し、中田勇次郎・傳申編『欧米収蔵中国法書名蹟集』所載の有無を確認する。

3. 今夏アメリカ調査旅行の事前準備
4. 調査予定作品リストの確認

前回の会議にて選定した今年度調査書跡リストをそれぞれハーバード大学(ユキオ・リット氏)、フリーア美術館(スーザン・キトリス氏)に送付し確認する。

(3) 6月20日(月)「第3回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：16：30-17：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 今夏アメリカ調査旅行の事前準備

2. 図書館分置図書の確認

科研資料として研究室に分置している図書の所在を確認し、書類を図書館に提出。

3. 備品購入

今年度調査画像のためにSDカード（8GB×2枚）を購入。

4. ウェブ上での研究成果の公開について

- ・2008-2010年の調査において撮影した書跡画像データを写真としてプリントしてアルバムに整理し、科研の基本資料とする。
- ・まずはウェブ掲載候補としてすでに選定済みの作品について、次回までにプリントし、コストや参照資料としての使い勝手などを確認する。
- ・今夏訪米時に、Web掲載希望画像をCD-ROMにして持参する。

5. 松井如流旧蔵欧米収蔵書跡写真資料について

中田勇次郎・傅申編『欧米収蔵中国法書名蹟集』掲載画像の現像写真とみられる資料が、現在書道研究所の資料として保管されている松井如流氏旧蔵品から発見された。今後科研の資料として活用する。

(4) 7月26日(火)「第4回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：10：00-11：00 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 科学研究費補助金について

- ・6/30付「平成23年度 科学研究費助成事業交付決定通知書」によって今年度の交付額が決定。ただし、震災の影響により7月末の支給額は7割。減額の可能性もあるため、予算の7割を目途に予算執行を行うよう通達あり。
- ・7/11(月)「平成23年度 科学研究補助金に係る説明会」における学内ルールの変更
  - ①3万円以上の購入品については用品検査を実施する。
  - ②立て替え払い、クレジットカード利用の購入の場合、所定の申請書の提出を義務化。

2. 書跡画像資料

- ・写真としてプリントアウトしたものについて、アルバムを購入してファイルに整理し、基本資料とする。
- ・ウェブ公開を予定している画像について、日本書跡・中国書跡各10点をあらためて選定。これらの作品について、ハーバード大学美術館とフリーア美術館とに分け、それぞれCD-ROMに記録し、今夏調査時に持参する。

### 3. 今夏訪米調査の準備

- ・今夏訪米時に調査予定の作品について、事前にウェブサイトなどで公開されている基礎情報の収集を行い、資料をまとめておく。
- ・現地調査に利用する基礎台帳の準備。

### (5) 8月2日(火)「第5回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：14：00-15：00 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

#### 1. 訪米調査準備

8/22(月)～29(月)の訪米調査日程、調査作品、台帳準備、持参品などについて最終確認を行う。

### (6) 8月31日(水)「第6回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：11：00-12：00 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

#### 1. 出張報告書の確認と提出

#### 2. ウェブ上での研究成果の公開について

- ・今回の訪米中、ウェブ上での研究成果の発表にかかわる書跡画像の公開について、ハーバード美術館およびフリーア美術館の各担当者に相談した。
- ・ハーバード大学美術館所蔵書跡については、リビット氏より、パスワードによる閲覧管理を提案される。
- ・フリーア美術館所蔵書跡については、Rights and Reproductions Coordinatorである Besty Kohut氏にウェブ掲載希望作品画像ファイルを圧縮してリストとともに送付し、掲載の可否や手続きについて相談するようスーザン・キトリス氏より指示を受けた。

#### 3. フミコ・クランストン氏への画像データ提供

ハーバード美術館における調査書跡画像をCD-ROMにて、現地調査に協力いただいたフミコ・クランストン氏にEMSで送付する。

#### 4. フリーア美術館担当者変更予定

現Collection Managerであるスーザン・キトリス氏は、今年度いっばいで退職予定であり、今後の担当者としてTim Kirt氏にコンタクトするようにとのことであった。

### (7) 10月4日(火)「第7回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18：30-19：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. ウェブ上での研究成果の公開について

・フリーア美術館所蔵書跡について、Besty Kohut氏に相談の結果、画像公開の承諾を得た。

2. 研究成果公開のためのウェブサイト新設について

・河内の個人HP内に「科研」ページを設ける。

・主な内容は、研究概要・調査報告書（PDFファイル）・作品目録・作品画像（一部）とする。

・作品目録の分類項目は、日本／中国・作品名・作者・時代・所蔵機関とする。

・ウェブ・デザイナーと基本設計について相談する（河内・高田）。

・年度内を目標にウェブの雛形づくりを進める。

3. 『大東書道』掲載報告書の作成

今年度調査作品について、報告書用のエクセル・データを次回までに準備する。

4. 備品購入

・画像データを取めたSDカードを取納するケースを、生協を通じて購入。

(8) 11月8日（火）「第8回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18：30-19：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 『大東書道』掲載報告書の作成

報告書の執筆分担を決定。

2. 科研費の支給

現在までのところ今年度予算の7割の支給にとどまっていたが、残り3割も満額支給される通知があった。予算の残額を確認する。

3. 来年度訪米日程

来年度はボストン・ハーバード大学美術館のみで調査を行うこととする。リビット氏と相談の結果、仮日程はつぎのとおりとする。

2012年8月5日（日）	日本発／ボストン着
6日（月）～9日（木）	ボストン・ハーバード美術館調査
10日（金）	ボストン発／翌11日（土）日本着

4. 研究成果公開のためのウェブサイト新設について

ウェブ・デザイナーと打ち合わせをし、基本的な設計方針について確認した。

(9) 平成23年12月6日（火）「第9回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：19：00-19：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 『大東書道』掲載報告書の作成
2. 科研費予算の確認
3. 予算執行計画の検討（優先度順）
  - ① これまでの書跡画像をすべてカラープリントし資料として製本する。  
年度毎に分け、基本台帳の情報を付す。  
⇒年内に絵画像枚数を数え、製本代金の見積もりを確認する。
  - ② カラーチャート
  - ③ PC購入（書道学科事務用）

(10) 平成24年1月10日（火）「第10回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」

時間：18：30-19：30 場所：安達研究室 出席者：河内・安達・高田・亀澤

1. 『大東書道』掲載報告書
2. 書跡画像データの製本資料化
3. 平成23年度「科学研究費執行計画書」を提出

(11) 平成24年3月13日（火）「第11回〈アメリカ収蔵書跡〉科研会議」予定

② アメリカ調査機関と調査書跡

今年度のアメリカにおける調査機関、月日、調査点数、現地での調査協力者を順に示すと次の通りである。

(1) ワシントンDC／フリーア美術館：8月23日（火）・24日（水）

「日本書跡」10点調査／「中国書跡」14点調査

スーザン・キトリス、ジョン・ワン

(2) ボストン／ハーバード大学美術館：8月25日（木）・26日（金）

「日本書跡」14点調査／「中国書跡」5点調査

ユキオ・リピット（研究協力者）、フミコ・クランストン、メリッサ・モイ

③ 今年度購入図書

勞継雄著『中国古代書画鑑定実録』全9巻

中国国内収蔵書跡の鑑定記録。

#### ④ 基礎データ台帳の作成

画像を取り込んだ、ファイルメーカー作成の基礎台帳に入力を継続して行った。以下にエクセルに変換した書跡を提示する。

#### 【凡例】

- (1)表記順序は、①NO、②分類番号、③時代、④筆者、⑤作品名、⑥頁数、⑦形状、⑧品質、⑨本紙法量の順とした。
- (2)NO欄の「H111-C001」について、Hはハーバード大学美術館、Fはフリーア美術館、11は2011年度、1は年度内第1回調査、Cは中国書跡、Jは日本書跡を示す。
- (3)分類番号は、各所蔵機関の番号をそのまま転記した。
- (4)時代については、書写年月がわかるもの、あるいは書写の世紀がわかるものは時代表記の後に記した。
- (5)作品名は各所蔵者の付した名称によったが、一部変更したのものもある。
- (6)本紙の法量は縦×横とし、cmを省略した。また第1紙のみ（対聯の場合は上聯）を計測した場合は、①23.7\*52.5のように記した。
- (7)筆者名や作品名には原則として常用漢字を用いた。
- (8)ペア（上下・対幅など）またはセット（組）は1点として数える。

#### (1) ハーバード大学美術館：「日本書跡」14点／「中国書跡」5点

ハーバード大学美術館所蔵「日本書跡」について

二度目の調査になるが、今回調査した日本書跡は14点である。時代別にみると奈良時代5点、平安時代6点、鎌倉～南北朝時代1点、江戸時代2点となる。

##### 1、拾遺和歌集残巻

『拾遺和歌集』から抜書きしたもので、蠟箋紙に下絵や金銀切箔砂子を施した華麗な料紙を用いている。箱書などには伏見院宸翰とあるが、実際は江戸時代の筆跡を示す。しかも何人かの手になる。付属の書付にはもと朝日新聞社主の上野氏の旧蔵とある。

##### 2、百万塔陀羅尼

奈良時代に百万基造られ奉納された百万塔のなかには印刷された陀羅尼が納められている。塔は、現在法隆寺に四万基以上残されているほか、各地で所蔵されている。陀羅尼も国立国会図書館や奈良国立博物館など各地で見られる。

### 3、兼好家集

唐紙に書かれた吉田兼好の家集で、奥書により寛永3年（1626）の中院通村自筆本を寛文4年（1664）に北向雲竹（1632～1703）が書写した本であることがわかる。

### 4、装飾法華経断簡

金界を施した染紙に法華経10行分が残されている。ただし、金銀泥蝶鳥の下絵は後に一部付加された可能性がある。文字は平安末期の書風を示す。

### 5、妙法蓮華経序品

金界を施した料紙に書かれた平安末期の一品経である。筆跡は数筆に分かれる。

### 6、般若心経

奈良時代後期の写経で、いわゆる「隅寺心経」と呼ばれるものの一つであろう。首題に「心経」とあり、全文17行である。文中の「無」の字は異体字でなく「無」を使用する。

### 7、紺紙金字法華経断簡

銀界を施された紺紙に金字で書かれた法華経の断簡である。箱書には奈良時代写とするが、平安時代に入るか。

### 8、二月堂焼経残卷

奈良時代書写の二月堂焼経の一部である。しかし、一紙から三紙目までは上辺が焼けているが、四紙目以降に焼跡はない。書風もやや異なる。後代に成巻したものか。

### 9、大般若経卷244

本文末に天平2年（730）の都菩臣足嶋の書写奥書と鎌倉時代の興福寺僧永恩による「句切了 永恩」という朱の奥書がある。フリーア美術館にもみられたいわゆる「永恩経」と呼ばれる大般若経の一部である。

### 10、大智度論卷第90

天平6年（734）の奥書をもついわゆる播磨既多寺知識経の一部である。奈良国立博物館、神戸市立博物館、島根大学などに同類のものがある。

### 11、紺紙金字法華経断簡

銀界を施された紺紙に金字で書かれた法華経の断簡である。平安時代初期の書風を示す。箱蓋の裏に大和国東明寺伝来と記す貼紙がみられる。

### 12、一字仏頂輪王経卷5

平安時代初期の經典である。紙帙の貼紙に石山寺旧蔵とあるが、今のところ確認できない。

### 13、妙法蓮華経卷第7

白河院筆の伝承を持つが、書写年代は平安末期とみられる。巻頭に「重快法印」との墨書

があるが、未詳。

#### 14、後拾遺和歌集残巻

伏見院筆の伝承を持つが、書写年代は14世紀で鎌倉時代末か南北朝時代に入る頃か。

ハーバード大学美術館：「日本書跡」14点

No.	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
H111-J001	1979.380	江戸	伝伏見院	拾遺和歌集残巻	1巻	卷子装	紙本墨書	①24.0*49.2
H111-J002	1984.339.2	奈良		百万塔陀羅尼	1枚	まくり	版本	②6.0*40.1
H111-J003	1984.356	江戸 (寛文4・1664)	北向雲竹	兼好家集	1冊	綴葉装	彩箋墨書	14.5*11.1
H111-J004	1984.552	平安		裝飾法華經断簡	1枚	台紙貼	紙本墨書	24.5*17.8
H111-J005	1984.558	平安		妙法蓮華經序品	1巻	卷子装	紙本墨書	①27.1*53.8
H111-J006	1984.559	奈良		般若心經	1巻	卷子装	紙本墨書	24.0*38.5
H111-J007	1985.355	平安		紺紙金字法華經断簡	1幅	掛幅装	紺紙金字	25.9*51.8
H111-J008	1985.357	奈良		二月堂焼経残巻	1巻	卷子装	紺紙銀字	①26.5*53.4
H111-J009	1985.360	奈良 (天平2・730)		大般若経巻二百四十四	1帖	折本装	紙本墨書	25.2*8.9
H111-J010	1985.361	奈良 (天平6・734)		大智度論巻第九十	1帖	折本装	紙本墨書	24.4*8.4
H111-J011	1985.364	平安		紺紙金字法華經断簡	1幅	掛幅装	紺紙金字	26.0*51.9
H111-J012	1985.367	平安		一字仏頂輪王経巻五	1巻	卷子装	紙本墨書	①27.6*55.0
H111-J013	1985.381	平安	伝白河法皇	妙法蓮華経巻第七	1巻	卷子装	紙本墨書	①24.8*43.3
H111-J014	1985.392	14c	伝伏見院	後拾遺和歌集残巻	1巻	卷子装	紙本墨書	①28.4*46.6

今回調査した作品は1970・80年代に同大学が受け入れたもので質が高い。やはり反町弘文荘から6点ほど購入していたことがわかる。

ハーバード大学美術館所蔵「中国書跡」について

二度目の調査で、今回調査した中国書跡は5点、すべて明代である。

#### 1、文徵明「小楷離騷九章・出師表・後出師表巻」紙本

東京国立博物館蔵「小楷離騷」には方界があり、マス目の中にきっちりとおさまられているのに対し、ハーバード大蔵は縦罫のみの界線（1cm間隔）で、一行の字数は不定。そのため端正で鋭い楷書ながら自由な筆致に見える。明末の大コレクター項元汴の印章が十数か所に鈐されている。

#### 2、王穉登「行書七律詩」扇面紙本

すべて字形がやや縦長であるのが特徴。

#### 3、陳淳「行草趙孟頫苔雪閑情巻」

あちこちに金粉かと思間違うシミがあった。フリーア蔵の横巻に比べれば動きがそれほどでもないように感じるが、それでも米芾や黄庭堅そっくりの字形がちりばめられており、

瞬時に書き分けられる技法の確かさと高さを持つ優品である。

#### 4、王文治「快雨堂偶然書」紙本

折本十二開。宋賢詞句十二首を書いている。小ぶりながら王法をよくこなしている逸品。

#### 5、王穀祥「行草七律詩二首」扇面紙本

文徵明の書風に通じる行書。

ハーバード大学美術館：「中国書跡」5点

NO	分類番号	書者年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
H-111-C001	1985.846	明 (1508)	文徵明	小楷離騷九章・出師表・後出師表卷	1 卷	卷子装	紙本墨書	17.4*279.4
H-111-C002	1985.860	明	王穉登	行書七律詩	1 面	扇面	紙本墨書	16.0*50.0
H-111-C003	1985.864	明	陳淳	行草趙孟頫若鶯閑情卷	1 卷	卷子装	紙本墨書	29.9*504.1
H-111-C004	1985.912	明	王文治	快雨堂偶然書	1 冊	折本装	紙本墨書	26.0*32.5
H-111-C005	1985.861	明	王穀祥	行草七律詩二首	1 面	扇面	紙本墨書	17.8*51.0

(2) フリーア美術館：「日本書跡」10点／「中国書跡」14点

フリーア美術館所蔵「日本書跡」について

三度目の調査になるが、今回調査した日本書跡は10点である。そのうちいわゆる書跡に分類されるものは3点で、時代別にみると奈良時代1点、平安時代1点、鎌倉時代1点となる。また、絵画作品に墨書や朱書がみられるものは、鎌倉時代制作の絵巻の詞書3点などである。

#### 1、大般若経巻165

奈良時代の典型的な写経で、朱の句切点全面にみられる。巻末に鎌倉時代の興福寺僧永恩による「句切了 永恩」の朱の奥書がある。したがっていわゆる「永恩経」と呼ばれる大般若経の一部であることが判明する。京都国立博物館に巻514(重文)が所蔵されるほか、東京の根津美術館、奈良の薬師寺や国立博物館などに遺品がある。

#### 2、白衣観音像

黙庵靈淵作とされる白衣観音像であるが、上部にある賛は了庵清欲のものと認められる。MOA美術館所蔵になる黙庵靈淵作布袋図にも了庵清欲の賛がみられる。そこに捺された朱文方印「少林心印」と同じものがこの白衣観音像にも捺されている。

#### 3、弘法大師在唐絵巻下

宮次男氏の研究により弘法大師在唐絵巻フリーア美術館本としてよく知られている。1965年に蘭山龍泉堂によって館に納入された。大正14年の「井上侯爵家御所蔵品入札目録」には絵が土佐隆相筆、詞書が世尊寺経朝筆とあるという。詞書は13世紀末のものであると類推されるが、世尊寺経朝の筆であるかどうかは今後の研究課題である。

#### 4、10、法然上人行状絵図断簡

2点とも詞書は同筆で、鎌倉時代後期の筆とみられる。国内にある同絵巻（国宝の知恩院本など）との関係は未詳。なお現在はパネルに貼り付けられている。

#### 5、文殊菩薩像

鎌倉時代作とされる文殊菩薩像の上部に「文殊師利大皇尊」から始まる文殊に関する墨書がある。14世紀前半頃の筆になる。なお現在はパネルに貼り付けられている。

#### 6、梵字宝篋印陀羅尼

朱書で梵字による宝篋印陀羅尼22行が書かれている。末に正応5年（1292）11月13日の金剛仏子某の奥書がある。1974. 21aの愛染明王坐像とともに伝来しているので、その胎内に納められていたものか。

#### 7、騎驢図

室町時代15世紀の絵画で、4行の墨書がある。ただし筆者は不明。なお現在はパネルに貼り付けられている。

#### 8、月庵宗光像

月庵宗光（1326～89）は南北朝時代の禅僧で、この肖像の上部に自賛がみられる。永徳2年（1382）の年紀がある。現在国内では愛媛県松山市の最明寺に永徳2年の年紀をもつ像と兵庫県豊岡市の円通寺に永徳3年の年紀をもつ肖像画が知られている。

#### 9、金剛寿命陀羅尼経

紺紙金字の平安末期の經典で、見返しに釈迦説法図が描かれ、首題の下に神護寺の印が捺

#### フリーア美術館：「日本書跡」10点

No.	分類番号	書写年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
F111-J001	F1993.12	奈良		大般若経巻百六十五	1巻	卷子装	紙本墨書	①25.3*51.2
F111-J002	F1968.61	南北朝	賛：了庵清欲	白衣観音像	1幅	掛幅装	絹本墨書	103.3*41.3
F111-J003	F1966.10	鎌倉（13c）		弘法大師在唐絵巻下	1巻	卷子装	紙本着色	①32.7*51.1
F111-J004	F1962.3	鎌倉		法然上人行状絵図断簡	1面	パネル装	紙本着色	40.6*73.0
F111-J005	F1909.362	鎌倉（14c）		文殊菩薩像	1面	パネル装	絹本着色	62.3*25.6
F111-J006	F1974.21b	鎌倉 （正応5・1292）		梵字宝篋印陀羅尼（朱書）	1幅	掛幅装	紙本淡彩 （朱書）	12.9*53.6
F111-J007	F1977.3	室町（15c）		騎驢図	1面	パネル装	紙本墨書	57.3*26.4
F111-J008	F1983.4	南北朝 （永徳2・1382）	賛：月庵宗光	月庵宗光像	1幅	掛幅装	絹本着色	95.3*39.9
F111-J009	F1985.36	平安		金剛寿命陀羅尼経	1巻	卷子装	紺紙金字	①25.8*51.6
F111-J010	F1972.3	鎌倉		法然上人行状絵図断簡	1面	パネル装	紙本着色	39.9*64.4

されている。すでに神護寺蔵の一切経2317巻が国の重要文化財に指定されているが、本巻はその僚巻とみられる。

今回調査した作品には、パネル状に装丁されたものが目立った。日本書跡関係の主な作品の調査は、インターネットで見られないものも含めてほぼ終了した。

フリーア美術館所蔵「中国書跡」について

4年連続四度目の調査で、今回調査した中国書跡は14点、うち明代が7点、清代が7点である。

#### 1、傅山「楷書聯軸」紙本

書かれた言葉は「性定會心自遠／身閑樂事偏多」。大楷の作品は珍しい。つぶさに見るとあちこちに補墨の跡があった。墨色はかなり薄い。そのため補墨の痕跡がはっきりと見て取れた。また左右の紙の大きさが微妙に違うのは表具のせいなのかどうか疑問が残る。落款の白文印「傅山」はかなりつぶれていてよく見えない。

#### 2、査士標「臨楊凝式大仙帖軸」絹本

ザクロの模様が等間隔にある美しい絹本。表具の絹とも呼応している。

#### 3、董其昌「臨王羲之三帖卷」紙本

王羲之の「玉潤帖」、「丙舎帖」、「治頭眩帖」を臨書したものであることを確認した。

#### 4、張瑞図「李夢陽五律詩軸」絹本

よく見かけるスタイルの作だが、絹本のせいか墨が点画全体に行きわたらず、かすれた状態のところが多くあるのが気になった。

#### 5、王守仁「尺牘三通卷」紙本

見事な行書で、楊維禎を髣髴する作に思える。

#### 6、法若真「七律小珠樓軸」絹本

面白い字形が多くあり、それがギューギュー詰めに入っている。表現も面白いが、格調はそれほど高く感じなかった。

#### 7、黄道周「詩十二首卷」紙本

今回の調査で一番楽しみにしていたもので、期待通りであった。紙本だが、金銀小切箔が散りばめられている。巻首外題に「明黄忠端公詩卷」とある。「江氏■■■■■／■亥新■■■■」の署名と思われるが、読みとれない。巻首に陶濬宣題字「孤忠耿墨」光緒己亥（1875・元年）がある。「深慙魚鳥漫成十二章」と落款にある。ただし黄道周の署名は無い。また詩

の終わり「右云々」の落款の間に別紙があり、康生氏の文章が書かれている。呉湖帆の観記（壬申重九）、葉恭綽の跋文（民国21年10月10日）がある。

8、董其昌「李白詩二首卷」紙本

卷首外題に「董書李白詩」とある。筆者不明（朱文印「石」字あり）。李白の「採蓮曲」と「烏夜啼」の二首を行書で書いたもの。落款は「其昌書」。

9、倪元璐「孫一元把酒漫成詩軸」絹本

小粒で墨の乗りが行きわたっているが、訴えかけるような気迫があまり感じられない。姚鼐の題箋「鴻寶先生筆翰、見之自使人增敬、其字實瘦勁可愛、非特以人重也」がある。

10、米万鍾「七絶尊拙園之三詩軸」紙本

一字一字堂々としている大作。近くで熟視すると、かすれが綺麗であった。

11、錢泳「隸書孔融荀勗七言二句聯軸」彩箋

数か所、茶色に変色しているが、翡翠色の彩箋は美しく、下絵もある。かすれのない、どっぶりとした落ち着いた小ぶりの対聯。エルスワースの所蔵品。

12、朱耷「臨褚遂良書雁塔聖教序」紙本

全一葉を台紙に貼り付けた小品。落款に「臨褚河南書」とだけある。断簡の可能性があらうか。いわゆる八大山人風の書きぶりの細楷である。

13、朱耷「内景経冊」紙本

外題に「八大山人小楷内景経真蹟逸品」とある。折本で全七枚12葉（1枚目は題字「神仙

フリーア美術館：「中国書跡」14点

NO	分類番号	書者年代	筆者	作品名	員数	形状	品質	法量
F111-C001	F1980.20.1-2	清（17c後半）	傅山	楷書聯軸	2幅	掛幅装	紙本墨書	①227.5*45.6
F111-C002	F1981.6	清（17c）	查士標	臨楊凝式大仙帖	1幅	掛幅装	絹本墨書	185.4*48.0
F111-C003	F1982.3	明（1636）	董其昌	臨王羲之三帖卷	1巻	卷子装	紙本墨書	24.9*216.4
F111-C004	F1982.32	明（1620s-30s）	張瑞図	李夢陽五律詩軸	1幅	掛幅装	絹本墨書	189.8*49.1
F111-C005	F1982.33	明（1521-1525）	王守仁	尺牘三通卷	1巻	卷子装	紙本墨書	①25.6*64.9
F111-C006	F1983.11	清（17c）	法若真	七律小珠樓軸	1幅	掛幅装	絹本墨書	182.5*43.5
F111-C007	F1983.5	明（1644-46）	黄道周	詩十二首卷	1巻	卷子装	紙本墨書	26.2*274.9
F111-C008	F1987.1	明（17c初期）	董其昌	李白詩二首卷	1巻	卷子装	絹本墨書	24.9*243.5
F111-C009	F1988.4	明（17c中期）	倪元璐	孫一元把酒漫成詩軸	1幅	掛幅装	絹本墨書	104.2*47.0
F111-C010	F1993.1	明（17c初期）	米万鍾	七絶尊拙園之三詩軸	1幅	掛幅装	紙本墨書	249.6*56.4
F111-C011	F1998.116.1-2	清（1816）	錢泳	隸書孔融荀勗七言二句聯軸	2幅	掛幅装	彩箋墨書	①123.1*31.2
F111-C012	F1998.28	清（1693頃）	朱耷	臨褚遂良書雁塔聖教序	1葉	台紙貼	紙本墨書	26.5*14.3
F111-C013	F1998.29.1-12	清（1684）	朱耷	内景経冊	1冊	折本装	紙本墨書	①22.0*11.5
F111-C014	F1998.43	清（1698頃）	朱耷	孫逖詩軸	1幅	掛幅装	紙本墨書	205.4*73.0

吐論」のみ)。12の書きぶりとは全く異なり、右肩上がりで切れ味のある作品である。

#### 14、朱耷「孫逖詩軸」紙本

これもいわゆる八大山人風の静かな響きを感じる大作。朱文印「方慧共讀」が左下にあるが、王方宇・沈慧夫妻がいっしょに作品を見たという意味である。同様の作品がもう一つあるとジョン・ワン氏が教えてくれた。

### 4、おわりに

本年度は五年計画の4年目の調査研究である。今回のアメリカ調査ほど、四人全員が無事に出張して帰国できたことを幸せに思うことはない。というのも二つの自然災害に遭遇したからである。一つはフリーアでの調査中に百何十年ぶりと言う地震があり、大過はなかったが調査が中断したこと。もう一つはハリケーンがボストンを直撃する恐れがあるので、予定の飛行機をキャンセルし一日早く帰国したことである。本当に無事に調査が終了できたことを喜びたい。

本報告も、各書跡についての簡単なコメントを付すことにした。一覧表だけでは書跡の実態が伝わり難いと判断したためである。中国を河内、日本を安達が担当した。

本年度は「日本書跡」24点、「中国書跡」19点、総計43点の調査成果をあげることができた<sup>①</sup>。その成果は、特にハーバード大学のユキオ・リピット、フミコ・クランストン、ハーバード大学美術館のメルシア・モイ (Cunningham Assistant Curator)、イエン・ヤン (Curatorial Assistant for the Collection)、そしてフリーア美術館のスーザン・キトリス、ジョン・ワン各氏の絶大なるご協力を頂戴したことによる。また大学院生の高田・亀澤両君に、データ収集、整理、入稿から基礎データ台帳の作成を担当してもらい、作業がスムーズに進んだ。ここに記して上記の方々に篤く感謝の意を表したい。初年度から本年度までの成果を踏まえ、次年度最終年度も調査研究を行い、最終報告書をまとめたいと思っている。

(2012.1.5)

---

①年度別で言えば、平成20年度71点、平成21年度39点、平成22年度47点、平成23年度43点で合計200点になる。書跡別で言えば、「日本書跡」は、平成20年度52点、平成21年度26点、平成22年度35点、平成23年度24点で合計137点、「中国書跡」は平成20年度19点、平成21年度13点、平成22年度12点、平成23年度19点で合計63点を数える。表にすると下記の通りである。

アメリカ収蔵書跡調査年度	日本書跡	中国書跡	総計
平成20年度 (2008)	52	19	71
平成21年度 (2009)	26	13	39
平成22年度 (2010)	35	12	47
平成23年度 (2011)	24	19	43
書跡小計	137	63	200

なお宋拓『淳化閣帖』については、平成21年度1点（4冊）、平成22年度1点（5冊）としてカウントしている。もし一書跡と見なすならばマイナス1点、9冊を別々の書跡と数えるならばプラス7点の計算になるが、現時点ではそのままにしてある。また平成21年度報告書に記した梁川星巖のようにダブルカウントした書跡があるが、それもそのままにしてあることをお断りしておきたい。

調査実施美術館別に集計すると下記ようになる。

アメリカ収蔵書跡調査実施美術館		H20 日/中	H21 日/中	H22 日/中	H23 日/中	美術館別計 日本/中国
B	バーネットコレクション	7/0	—	10/1	—	17/1
M	ボストン美術館	15/0	15/0	—	—	30/0
F	フリーア美術館	9/5 20/0	0/13	10/5	10/14	49/37
SE	シアトル美術館	1/14	11/0	—	—	12/14
H	ハーバード大学美術館	—	—	15/6	14/5	29/11
年度別書跡小計		52/19	26/13	35/12	24/19	137/63